



(1) 2つの高等研究院

- 先端科学高等研究院「IAS」
量子情報研究センター、先進化学エネルギー研究センターと情報・物理セキュリティ研究ユニット、バイオアッセイ研究ユニット、電気エネルギー変換研究ユニット、超省電力マグノニックデバイス研究ユニットを形成し、卓越性の強化を図り、研究力の一層の向上を目指す。
- 総合学術高等研究院「IMS」
台風科学技術研究センター、豊かな社会研究センター、次世代ヘルステクノロジー研究センター、半導体・量子集積エレクトロニクス研究センターと生物園研究ユニット、革新と共創のための人工知能研究ユニット、共創革新ダイナミクス研究ユニット、地球文化財学研究ユニット、次世代工学システムの安全科学研究ユニットを形成し、多様性の強化を図り、社会貢献や社会共創を強く意識した研究を進める。

(2) 大学院先進実践学環

国際社会科学府、都市イノベーション学府、環境情報学府、理工学府の4つの大学院の約180名の教員が500を超える授業を提供し、先進的な文理融合の教育研究を実践する大学院修士課程の学位プログラム。「知識の統合」を実施することで、Society5.0における新たな価値とサービスの創出・普及の場面で実践的に活躍できる人材を養成している。

(3) YOKOHAMA MDA(Y-MDA)プログラム

今後のデジタル社会の基礎知識である「数理・データサイエンス・AI」をすべての学生が身に付けておくべき素養と位置づけ、すべての学部生が受講可能なYOKOHAMA MDA(Y-MDA)プログラム（リテラシーレベル）を実施しているが、さらに令和5年度からは、リテラシーレベルで学んだ基礎知識をもとに自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを活用するための大局的な視点を獲得するY-MDA（応用基礎レベル）を全学部学生を対象に開始した。

数理・データサイエンス・AIの応用基礎的な技術の理解をさらに深めるとともに、これらを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成する。



るための化学エネルギー、グリーン水素研究を行う「先進化学エネルギー研究センター」、2021年に日本

初の台風専門機関である「台風科学技術研究センター」、さらに2024年に「半導体・量子集積エレクトロ

横浜国立大学の学部教育は、横浜の歴史と伝統に根ざした実学的色彩が濃いことも特徴で、中規模校ならではの柔軟性と機動力を発揮して、世界に通用する人材を育成しています。「専門性を担保することは非常に重要です。国立大学として専門性を

専門性を担保した教育で文理融合の学びを展開

ニクス研究センター」を開設し、地球規模の課題解決に資するべく、イノベーション創出の中心的な役割を果たし、人材育成と研究成果を社会へ還元することで貢献していきます。半導体、量子情報・通信、気候変動、グリーントランスフォーメーション、脱炭素都市、海洋空間、都市防災、経済安全保障問題など、社会課題の先端に位置する研究は、一見難しく思えますが、私たちの暮らしや安心、そして子供たちの未来に直結しています。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。

梅原学長は「こうした研究での先進的な取り組みが教育にも還元され」と考えています」と話します。



うめはらいしげる
梅原 出学長
1987年富山大学理学部卒業。92年筑波大学大学院工学研究科物質工学専攻博士課程修了。専門は固体物性物理学・超伝導、磁性。横浜国立大学教授、副学長を経て2021年より現職。

横浜高等工業学校、横浜高等商業学校、横浜師範学校をルーツに持つ横浜国立大学は2024年、創基150周年、開学75周年を迎えました。「実践性・先進性・開放性・国際性・多様性」の5つの基本理念のもと、「新たな社会・経済システムの提案」「イノベーションの創出・科学技術の発展」に寄与する「知の統合型大学」として世界水準の研究大学を目指し、さまざまな大学改革を推進しています。

人文系、社会系、理工系など幅広い分野が国際都市・横浜のワンキャンパスに集い、専門性を重視した文理融合の教育を展開。神奈川県唯一の国立総合大学として、国際的に活躍し、社会に貢献する人材を育成しています。

横浜国立大学

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1 総務企画部リレーション推進課 TEL 045-339-3027 <https://www.ynu.ac.jp/>

「知の統合型大学」としてグローバルに活躍する人材を育成し「世界水準の研究大学」を目指す

多様性を新たな基本理念に加え、大学改革を推進

横浜国立大学は昨年2024年に、創基150年を迎えました。その歴史は、横浜師範学校、横浜高等工業学校、横浜高等商業学校という三つの学究の場を源流にします。それぞれが異なる役割を担いながら、日本の発展に寄与してきました。そして戦後、新制大学として統合され、横浜国立大学となりました。しかし、私たちの使命は、過去を振り返ることにあるのではなく、これからの100年、150年の未来を切り拓くことにあります。

「知の総和」という言葉をご存じでしょうか。人口が減少する時代において単に人数の減少を嘆くのではなく、個々の知の向上こそ、社会全体の知的基盤を維持し、さらには発展させる鍵となります。

横浜国立大学は2023年、大学憲章を改定し、従来の「実践性・先進性・開放性・国際性」に加えて「多様性」を新たな基本理念としました。「人間と学問の多様性を教

育・研究の礎として、新しい価値を共創していくために、性別、障がい、国籍などを超えて、多様な学生と教職員が尊重し合い共生・協働していく場を構築し、一人一人が豊かにその力を発揮できるようにする」と謳っています。

梅原出学長は「多様性を重視していくことが、大学の今後の一つのプリシブルになっていきます。大学改革においても多様性を重要視しており、経営戦略についても学外有識者や女性の意見をしっかりと聞いて大学の経営に反映させていきたいと考えています。まさに多様性の重視は大学の改革の柱でもあります。本学は「知の統合型大学」を目指しています。多様であるからこそ知の統合が成り立つのです。社会にはさまざまなバウンダリ（境界）があります。これらをスパニング（統合）することが重要で、知の統合とはバウンダリ・スパナリだと言ったことができます。これこそ本学の進む道です」と語ります。

横浜国立大学が立地する神奈川県は日本を代表するグローバル都市・横浜をはじめ、川崎、相模原と3つの政令指定都市を抱える一方で、過疎化と高齢化の進む地域もあります。つまり、神奈川県は「課題先進国」である日本の縮図とも言えるわけです。「横浜国立大学は、その県内唯一の国立総合大学として地域に貢献することで日本の縮図に対応していきます。すなわち地域貢献という視点では、世界への貢献でもあります」と

梅原学長は説明します。

このコンセプトのもと、研究者チームによる4つのNCC（ネクストコラボレーション拠点）として、羽沢横浜国大駅周辺Core、横浜都心Core、新湘南Core、県西Coreを形成しました。たとえば、2023年に設置した「YNU新湘南共創キャンパス」では、「次世代ヘルステクノロジー研究センター」を中心に、藤沢市・鎌倉市などのステークホルダーとの共創活動を開始しています。JR村岡新駅（仮称）の開設を見据え健康長寿を目指した新しいまちづくりが始まる藤沢市村岡地区、鎌倉市深沢地区をフィールドに、「湘南鎌倉総合病院等と連携したオモロイ病院プロジェクト」、産・学・医連携における課題発見・解決授業」など、実践的な教育研究を展開中です。

多彩な研究拠点を擁し、先端的研究を実践

近年、地球規模の環境問題が重要な研究テーマになっていますが、横浜国立大学における幅広い研究を可能にしているのが、2つの高等研究院です。高等研究院は、世界水準の科学研究を行う分野を戦略的に集約し、世界ナンバー1を目指す先端科学高等研究院と、さまざまな分野の研究者が集結しオンリー1を目指す総合学術高等研究院の両輪体制で、研究に特化した組織です。

2020年に脱炭素社会を実現す

2022年度には、「大学の世界展開力強化事業」に「レジリエントな社会への変革をリードする産官学連携ヨコハマ国際教育プログラム」を横浜の地域力を活用した実践グローバル教育による日印豪ブリッジング人材の育成」が採択されました。インド・オーストラリアとの国際共修を行う「YOKOHAMA SXX IP 副専攻プログラム」を構築し、パートナー大学との国際学生交流を通じ、持続可能な未来社会を創造するSX人材育成に取り組んでいます。

「よい風が吹く」キャンパスで地球規模の課題に挑戦

横浜国立大学は「学生第一」を標榜しています。梅原学長は「47都道府県すべてから集まる日本人学生の皆さんと世界中約80カ国から集まる留学生の皆さん1万人、5学部6大学院の多様な知と人が1キャンパスに集まっています。しかも、非常に風通しがよく、ジェンダーの違いや障がいの有無といった垣根を取り払って、多様な若者が学べる環境を揃えています。

環境省の自然共生サイトに認定された「横浜国立大学ときわの森」がある緑豊か落ち着いたキャンパスで、文理融合の教育を実践しています。横浜国立大学は、そんな横浜の地で、地球規模の課題に立ち向かう大学なのです。いろいろな個性を持った多様な若者を待っています」とエールを送ってくれました。